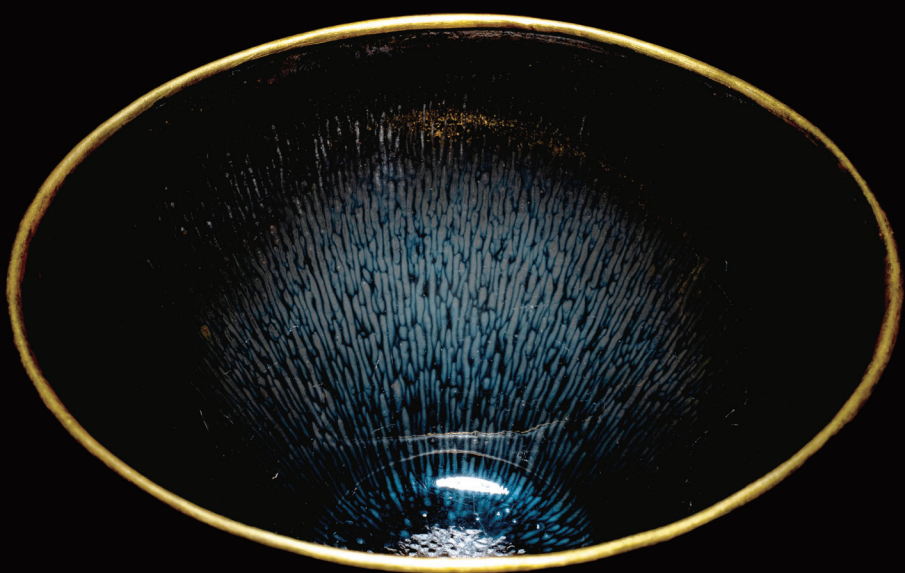


esplanade



FUKUOKA ART MUSEUM 福岡市美術館

esplanade [HSCエスplanade]
OCTOBER 2023 | NO.213

esplanade

[エスプラナード]

OCTOBER 2023 | NO.213

contents

- 03 所蔵品紹介
- 04 東光院からやってきた仏様
- 06 福岡をアートのまちに！
福岡アートアワードとは？
- 08 開催10周年 ファミリーDAYにおいでよ!!
- 10 美術館スケジュール（10～12月）

今回のエスプラナードは、福岡の今昔が共存する号になりました。古く平安時代から「堅粕薬師」と人々に親しまれてきた東光院の仏像や、現在福岡で活動を行い、社会が抱える課題と向き合う「福岡アートアワード」受賞アーティストたち。そして、10周年を迎える「ファミリーDAY」。10年前、ファミリーDAYに参加した子ども達は、いまごろどんなふう

に成長しているでしょう。「文化の育つ土地」ってどんな場所なのでしょう。これから考え続ける必要があります。そうです。

表紙の作品

所蔵品紹介

建盞天目茶碗

器の内外にたつぷりと掛けられた釉薬が漆黒色をなしています。表面には銀色の細い筋が幾重にも流れ下り、濃紺や青の色を生じて、まるで螺鈿装飾のように幻想的に煌めいています。

建盞とは、中国福建省建陽市一帯にあった建窯で焼かれた喫茶用の黒釉碗のこと。釉薬に含まれる酸化鉄の結晶が、焼成時に溶けて様々な文様を生じます。本作のように幾条もの細い筋状の文様は「禾目」または「兎毫」と称され、他に「油滴」、「曜変」があり、建盞を代表しています。

口縁の下を括弧させたすり鉢形で、高台を小さく作るこの端正な姿の茶碗を、天目と呼びます。その語源は、浙江

省北部にある天目山。鎌倉時代の日本人禅僧の留学地であったといわれ、彼らが現地で使い日本に持ち帰ったという伝承に由来する呼称です。

小さく作られた高台は、内側を浅く平らに、丁寧に削り整えられています。外側を流れ落ちる釉薬は、先端に今にもしたたり落ちんばかりの大きな露（釉溜り）をたくわえ、裾の辺りで見事に静止しています。非の打ちどころがないほどの素晴らしい出来映えを示す一品です。

※本作は「海を越えた交流―墨蹟を中心に」展（松永記念館室にて10月31日より開催）に出品予定です。

学芸課長 後藤恒

中国・南宋時代 12～13世紀
陶器
高7.0cm/口径12.0cm/重さ320g
松永コレクション

東光院からやってきた仏様

福岡市美術館1階には、古いお堂を再現した展示室があります。こちらに居並ぶ仏像は、博多区吉塚で古くから信仰されてきた薬王密寺東光院から寄贈されたものです。仏像を専門とする学芸員2人が、当館展示室と東光院を尋ねて、その魅力を語り合いました。

当館1階
東光院仏教
美術室にて

語り合った人

福岡市博物館
主任学芸主事(仏教美術担当)
末吉 武史

当館学芸員(古美術担当)
宮田 太樹



緑り広げられる、ディープな仏像談話。
この話を聞いていたら、鑑賞がもっと楽しくなります。

博多区吉塚
東光院



お寺を訪ねると、いろいろ知りたくなってしまう
仏像研究者の性。「ふむふむ」



あいにくの大雨の日でしたが、仏像がどのように
祀られていたかを身近に感じることができました。

——お二人は、ふだんどんなことから仏像
のご案内を始めますか？

宮田 私はこちらの展示室ではまず、
360度ぐるりと鑑賞できることをお話
します。なかなか仏像の背面を見る機会
はないので、興味を持っていただけです。た
だ単なる鑑賞の対象として扱ってしまわな
いように気をつけています。

末吉 信仰の対象であるという観点は大
切ですよ。その姿勢は、例えば仏像を
見下ろすような構図にしないなど、展示の

方法そのものにも関わります。

私は「いいお顔ですね」と話を始めるこ
とが多いかなあ。ひさしぶりに伺いました
が、御本尊の薬師如来立像は変わらず静
かで優しいお顔をされています。平安後期
の定朝様式ですね。どこで作られたかは分
かっているのですか？

宮田 はつきりとわかっていません。定朝
様式は都の貴族の好みに合う、優しい表現
が特徴です。京都で作られて運ばれたか
もしれませんが、九州で彫られた可能性
も否定できません。

姿だったようです。

末吉 平安末期は、末法思想なども手
伝って日本中に厚い信仰が広がった時期で
す。京都の流行のスタイルが、短期間で広
範囲に伝播しているのが確認できます。
東光院は最初是天台宗のお寺でしたから、
比叡山延暦寺の薬師如来像に倣ったので
しょうね。時代や宗派によってどの仏様が
多いか傾向が見られますが、平安時代は
薬師如来が多いです。薬師如来はほかの
仏様と違って、現世での苦しみを救ってく
ださいますからね。

——薬壺が金色で神々しいですね。

宮田 これは美術院国宝修理所で修復
した時に新しく作り直したものです。お
像全体もいまは木肌ですが、元々は赤い
衣に金色の肉身(朱衣金体)の華やかな

末吉 一方の周りを固める十二神将立像
(平安時代)たち、これは九州製でしょう。
体つきがずんぐりとして細かいところま
でゴテゴテと彫り込んでいます。薬師如来が
”おだし”としたら、こちらは、豚骨の味
濃いめですね。でも小さいけど上手いなあ。

宮田 平安後期の九州には、通常であれ
ば彩色で表現する甲の文様を彫り込んで
表現するなど、中国の影響を受けた独自
の造形が見られます。頭に十二支を載せ
た姿といい、なかなかかわいくて見飽きな
いですね。

ちなみにこの十二神将には3体だけ江
戸時代に作られたものが混ざっています。
当館にお越しの際に、ぜひ見比べて当て

みてください。

——移動して、博多区吉塚東光院にて

宮田 こちらの薬王密寺東光院は、平安
時代に天台宗のお寺として最澄が開いた
と伝えられています。旧福岡藩主黒田家
ゆかりの寺院として大切に守られてきま
したが、宗教法人としての活動を終えら
れるということで、昭和49年に御本尊を含
む多くの仏像などを当館に一括で寄贈いた
だきました。お寺は福岡市の史跡として
保存されています。

末吉 仏像がこの規模で寄贈されるとい
うのは、お寺が仕舞われるタイミングと文
化的な価値が一致したレアケースですよ。
本来仏像は信仰の対象として地域で大

切にされてきたものの、ひとたび博物館や美
術館で保存するとその歴史が切れてしま
います。実際に現地を訪れると、どのよう
に地域の人たちが大切にしていたのかを
肌身で感じるができます。

宮田 とはいえ保存しないと失われてしま
うものも多い。後世に伝える役割も大きい
ですね。記録だけではなかなかイメージ
しにくいものの、形が残っていると、そこを
縁に当時のことを考えることができます。

末吉 私は、仏像を研究する意義がそこ
にあると思っています。当時の人達が一生
懸命お金や手間暇をかけて守ってきたも
のを知ること、周りにいた人間のことが
見えてくる。知れば知るほど「いまの私た
ちと変わらないな」と思います。

重要文化財 〈薬師如来立像〉

平安時代12世紀



展覧会情報

東光院のみほとけ

◇会期…通年(展示替えあり)
◇会場…1階 東光院仏教美術室

第1回の受賞作家と作品

市長賞



鎌田友介《Japanese houses (Taiwan/Brazil/Korea/U.S./Japan)》(2021年)

日本占領下の韓国や台湾で作られた日本家屋や、戦時中にアメリカで焼夷弾実験のために作られた日本村などの調査をもとに制作された作品です。調査で撮影した写真や図面、材木等が「床の間」を模した構造の中にずれを伴いながら接ぎ合わされ、歴史における日本家屋が持つ多様な意味を示しています。

優秀賞



チョン・ユギョン

《Let's all go to the celebration square of victory!》(2018年)

印刷物のドットのような円い形によって構成された絵画作品です。よく見ると、大きな黒いドットの部分は、左腕を挙げた人の形をしています。これは、朝鮮民主主義人民共和国のプロパガンダポスターの構図を用いています。明確な線はないのにその形を見てしまう認識のありようは、在日コリアン3世として日本で生まれ育った作家にとつての祖国という存在や祖国との距離感が重ね合わされています。



石原海

《重力の光》(2021年)

福岡県北九州市にある東八幡キリスト教会とNPO法人「ほうほく抱撲」が運営する生活困窮者支援施設を舞台とした作品です。元ホームレスや元ヤクザ、NPOのスタッフなど、教会に出入りする9名と試みたキリスト受難劇の演劇のしようと、演者らへのインタビューによる映像作品には、それぞれの人生や祈り、様々な重荷からの解放が表れています。



福岡をアートのまちに！ 福岡アートアワードとは？

福岡市美術館が昨年度創設した「福岡アートアワード」。福岡市が彩りにあふれたアートのまちを目指するために、昨年度からこの新しい「Fukuoka Art Next」事業のひとつです。本年度は2回目の実施となり、現在その候補者を募集中です。

ここでは「福岡アートアワード」を知っていただくため、「第1回福岡アートアワード」のふりかえりをおこない、候補者募集の内容、条件についてもご紹介したいと思います。

「福岡アートアワード」とは？

福岡市内で目覚ましい活動をおこない、今後さらなる飛躍が期待できるアーティスト（美術作家）を対象に、作品の買い上げをもつて贈賞する賞です。作品の買い上げはアーティストの支援となり、買い上げた作品は当館の所蔵品として展示活用されます。福岡で活動をおこなうことが条件となりますので、福岡市にアーティストが集まるきっかけとなり、市民がアートに親しむ機会が増え、さらに当館には優れた作品が蓄積されていくことになります。

候補者の公募と選考

「第1回福岡アートアワード」では、9～10月に候補者の公募をおこない、82名の応募が集まりました。選考は、国際的に活躍されている、水沢勉氏（神奈川県立近代美術館館長）、植松由佳氏（国立国際美術館学芸課長）、堀川理沙氏（ナショナルギャラリーシンガポール、キュレートリアル&コレクションズ ディレクター）の3氏に選考委員にご就任いただき、2回の選考委員会を実施していただきました。最終的に、市長賞1名、優秀賞2名の受賞作家が決定しました。

いずれの作品も、作家が歴史や社会と向き合い、明確なテーマをもつて表現されており、鑑賞者の思考や感覚を揺さぶる作品ばかりです。現在、近現代美術室Cにおいて、鎌田さんの作品が展示中です。現在候補者募集中の「第2回福岡アートアワード」は、来年3月中旬に受賞者の発表を予定しています。ぜひご期待下さい。

—— 近現代美術係長 山本裕子

第2回 福岡アートアワード

応募要項

【募集内容】

■ 募集期間

2023年
9月15日(金)から10月31日(火)まで

■ 応募方法

福岡アートアワード専用ページ
(<https://fukuoka-art-next.jp/faa/>)より、応募様式(①-③)をダウンロードし、必要事項を記入の上、補足資料(④、⑤)とともにオンラインフォームよりご応募ください。

【選考結果と発表】

■ 1次選考結果

2023年12月中旬に1次選考通過者のみにメールにて通知します。

■ 選考結果(受賞者、買い上げ作品)

2024年3月中旬に発表します。

そのほか詳細は、
福岡アートアワード公式サイト
よりご確認ください。



ファミリーDAYで開催してきた
プログラムの一部をご紹介します。

かいとうキッズ 美術館の謎をとけ!

展示中の当館所蔵品にまつわる「謎」(クイズ)を
解きながら、作品をじっくり鑑賞するプログラムで
す。クイズは私たち職員が毎年考えています。



ミニミニ ワークショップ

大きな「たね」形の箱から、いろいろな素材をひい
て、森のなかまを作るワークショップです。未就学
児が初めて創作活動ができる場をつくろうと、当
館キッズスペース「森のたね」をデザインしたオー
ギカナエさんと一緒に考案しました。



初めての ベビーカーツアー

赤ちゃんと美術館に行きたいの?という声に「も
ちろんです」と答えたいという思いから、2019年
から始めたツアーです。館内をベビーカーでお散
歩しながら他の赤ちゃんと保護者と一緒に作品
を鑑賞します。



アーティストとの ワークショップ

福岡で活動するアーティストを講師に迎え、当館
の所蔵品をテーマに毎年オリジナルのワーク
ショップを考えて実施しています。アーティストと
参加者が出会い化学反応が起きる、素敵な時間
です。



(「アーティストと一緒に風の彫刻をつくろう」2021年)

開催10周年 ファミリーDAYにおいでよ!!

2013年から始まった福岡市美術館の「ファミリーDAY」は、
今年で10周年を迎えます。

福

岡市美術館のファミリーDAYは11月3日の開館
記念日に合わせ、2013年より毎年開催している
もので、今年で10周年を迎えます。若い家族に向けての
開館記念日の周知と、家族で美術館に出かけ美術体験
をする楽しみや面白さを知ってもらうために、11月3日の
前後3日間を開催日として、子どもから大人まで楽しめる
さまざまなプログラムを行ってきました。

毎年この期間はたくさんの親子で館内がとても賑わい
ますが、ファミリーDAYが始まった当初は参加者もそれ
ほど多くはありませんでした。2013年に参加した子ども
の数は638人。それが年を追うごとに増え、2022年は
1067人に。さらに嬉しいことに、リピーターも増えて、毎
年「かいとうキッズ」のクイズに挑戦しに来る子やワー
クショップに参加する子どもたちもいます。

また、10年で大きく変化したことの1つが、未就学児
の参加がとても増えたことです。10年前も今も、もしか

すると美術館は子どもと一緒にには行きにくい場所である
と認識されているかもしれません。けれど、少なくとも
ファミリーDAYを開催している期間は、当館が「家族で
美術を楽しむ場」へと変化しているように感じます。こ
れからもファミリーDAYを続けることで、それが当たり前
のことであるとする寛容な社会がもっと広がることに
期待しています。

2013年にファミリーDAYに参加してくれた小学生は、
もう二十歳前後になっているはず。彼らの記憶に、
僅かでも美術館での楽しい家族との体験が残ってい
れば、きっと大人になってからも美術館に足を運んでく
るのではないかと私たちは考えています。いつか、彼ら
が親になって自分の子どもと一緒にファミリーDAYに参
加してくれることを夢見て、今後もファミリーDAYは続き
ます。(教育普及係一同)



2023年のファミリーDAYは11月3日(金・祝)～5日(日)の3日間です。

プログラムの詳細については、当館のホームページ、ファミリーDAYのチラシ(webにも掲載します)、SNSをご覧ください。
プログラムには事前予約制のものと、事前予約無しで当日ご参加いただけるものがあります。
今年もとおきのプログラムを準備して、皆さまのお越しをお待ちしています!

webの情報はこちら ▶ <https://www.fukuoka-art-museum.jp>

写真はこれまでに開催したファミリーDAYの様子です。

10月	11月	12月
1 日 2 月 3 火 4 水 5 木 6 金 7 土 8 日 9 月 10 火 11 水 12 木 13 金 14 土 15 日 16 月 17 火 18 水 19 木 20 金 21 土 22 日 23 月 24 火 25 水 26 木 27 金 28 土 29 日 30 月 31 火	1 水 2 木 3 金 4 土 5 日 6 月 7 火 8 水 9 木 10 金 11 土 12 日 13 月 14 火 15 水 16 木 17 金 18 土 19 日 20 月 21 火 22 水 23 木 24 金 25 土 26 日 27 月 28 火 29 水 30 木 31 金	1 木 2 金 3 土 4 日 5 月 6 火 7 水 8 木 9 金 10 土 11 日 12 月 13 火 14 水 15 木 16 金 17 土 18 日 19 月 20 火 21 水 22 木 23 金 24 土 25 日 26 月 27 火 28 水 29 木 30 金 31 土
9月9日(土)ー11月12日(日) ・日本の巨大ロボット群像 ー巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現ー		11月23日(木)ー12月3日(日) ・第5回 日本陶磁協会奨励賞 九州・沖縄展(同協会 TEL 03-3292-7124)
通期 ・コレクションハイライト (近現代美術室A)		
8月29日(火)ー11月5日(日) ・奈良原一高「王国」(近現代美術室A)	11月7日(火)ー1月21日(日) ・日本画にみる人物表現 (近現代美術室A).....!.....	人を描いた日本画の作品に注目し、画家たちが人をどのように描いてきたのか探ります。
9月16日(土)ー10月22日(日) ・FaN Week特別展示 コレクターズ展 (近現代美術室B)	10月27日(金)ー1月21日(日) ・九州の女性画家たち2 (近現代美術室B)	
通期 ・コレクションハイライト (近現代美術室C)		
9月13日(水)ー10月22日(日) ・企画展 朝鮮王朝の絵画 ー山水・人物・花鳥ー (古美術企画展示室)	10月25日(水)ー12月17日(日) ・幻の古陶・現川焼 ー田中丸コレクションを中心にー.....!..... 10月25日(水)ー12月17日(日)・仙厓展 (古美術企画展示室)	現在の長崎市現川町で17世紀末から18世紀前期に焼かれた現川焼の優品を紹介します。
8月22日(火)ー10月29日(日) ・秋の名品展 (松永記念館室)	10月31日(火)ー1月14日(日) ・海を越えた交流 ー墨蹟を中心に (松永記念館室)	12月19日(火)ー2月18日(日) ・狩野派絵画名品展 (古美術企画展示室)
通期・東光院のみほとけ (東光院仏教美術室)		

LECTURE

つきなみ講座

OCTOBER-DECEMBER 2023

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順(30分前開場) ※定員等は変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

11月 日本画、そしてアジアの伝統絵画について

アジアには、西洋美術が流入する以前から描かれていた伝統絵画があります。日本だけでなく、中国、モンゴル、ネパール、パキスタンなど、それぞれの地域で現代まで息づく伝統絵画の展開についてお話します。

日時：11月25日(土)15:00-16:00
会場：レクチャールーム(定員 54人)
講師：山木裕子(近現代美術係長)



吉村忠夫畫刻 1939年

10月 「朝鮮王朝の絵画ー山水・人物・花鳥ー」

企画展「朝鮮王朝の絵画ー山水・人物・花鳥ー」の出品作品を中心に朝鮮王朝絵画の変遷を解説します。

日時：10月21日(土)15:00-16:00
会場：レクチャールーム(定員 54人)
講師：宮田太樹(学芸員・古美術係)



「文清印」(徽宗熙寧秋景山水図) 朝鮮時代前期 15世紀半ば 個人蔵

12月 カンボジアの染織と仏教

カンボジアの絵絛は、精巧な技術による絵画的な表現で知られています。そこに表されるのは、インドシナ半島に広がった仏教の教えです。絛で表された仏や精霊、動物たちの意味をひもときます。

日時：12月16日(土)15:00-16:00
会場：レクチャールーム(定員 54人)
講師：岩永悦子(館長)



《寺院鳥獸文様絛絛》カンボジア 19世紀

ギャラリー A-F 2階

2023年10月3日(火)ー10月9日(月)
・第15回福岡市障がい児・者美術展 福岡コアサイドアート美術展2023 (ギャラリーA,B,C,D)
・西日本写真協会福岡支部「フォトニ水会」第27回作品展(ギャラリーE)
・朝日カルチャー「岩永豊写真塾」作品展 (ギャラリーF)

2023年10月11日(水)ー10月15日(日)
・第49回玄霜会日本画展(ギャラリーA)
・第53回福岡市高齢者美術展 (ギャラリーB,C,D)
・鉛筆画教室展(ギャラリーE)
・ゆう美会作品展(ギャラリーF)

2023年10月17日(火)ー10月22日(日)
・The Creators 2023(ギャラリーA,F)
・第8回楔山書會展(ギャラリーB,C,D)
・窪田正博展(ギャラリーE)

2023年10月24日(火)ー10月29日(日)
・第28回福岡市美術連盟展 (ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2023年10月31日(火)ー11月5日(日)
・第5回MOPあーと展(ギャラリーA)
・CHIKAPPART イラストから立体まで (ギャラリーB,C,D)
・IZUMI展(ギャラリーE)
・九州藍筍会展(ギャラリーF)

2023年11月7日(火)ー11月12日(日)
・～花の肖像～第23回ふくおか植物画会 ボタニカルアート展 (ギャラリーA)
・第44回中央区市民文化祭美術作品展 (ギャラリーB,C,D,E,F)

2023年11月14日(火)ー11月19日(日)
・令和5年度福岡県高等学校 総合文化祭美術・工芸展県大会 (ギャラリーA,B,C,D,E,F)
・全日本山岳写真協会 山岳写真同人筑紫 (ギャラリーF)

2023年11月28日(火)ー12月3日(日)
・第43回南区美術展(ギャラリーA,B,C,D)
・わくわく糸かけアート展(ギャラリーE)
・彩葉展(ギャラリーF)

2023年12月5日(火)ー12月10日(日)
・マビ会(ギャラリーA)
・第51回九州行動展(ギャラリーB,C,D,F)
・第52回福岡市医師会文化祭美術展(ギャラリーE)

2023年12月12日(火)ー12月17日(日)
・西区市民美術展(ギャラリーA,B,C,D,E)
・第21回金曜会作品展(ギャラリーF)

2023年12月19日(火)ー12月24日(日)
・九州産業大学付属九州高等学校 造形芸術科58期卒業制作展・授業作品展 (ギャラリーA,B,C,D)
・伊藤芯作品展(ギャラリーE)
・バステルアート教室ラフ・ラフ作品展(ギャラリーF)

大王製紙は、環境に配慮した製品を通して、
地球環境に貢献し続けます。



世界中の人々へ
やさしい未来をつむぐ

大王製紙株式会社

東京都千代田区富士見二丁目10番2号
<https://www.daio-paper.co.jp/>



福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体



ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、
今後とも機会あるごとに美術品を収集すること
が不可欠であり、そのための資金として皆さま
から「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による
寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに！
もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。
福岡市文化芸術振興財団のホームページ
（<http://www.ffac.or.jp/wa/>）または
ミュージアムショップ店頭で入会受付中。



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト

www.fukuoka-art-museum.jp



esplanade OCTOBER 2023 | NO.213

福岡市美術館 季刊誌エスプラナード213号 発行日：2023年10月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）【編集】浅野佳子
（nico edit）【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ
【発行】福岡市美術館（〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051
FAX:092-714-6071 <https://www.fukuoka-art-museum.jp>）

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL:092-714-6051（代表） FAX:092-714-6071
【開館時間】9:30～17:30（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00）※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】月曜日、年末年始（12月28日～1月4日）※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日